

授業科目名	課題解決型データ分析論特講 1
科目番号	02JL001
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春 C 火 7,8
担当教員	岡田 幸彦
授業概要	社会科学のデータ分析手法や研究デザインを学ぶ。特に、受講生の研究課題、問題意識、保有データに対して適切な分析手法について、深い理解を得られるように、対話形式で授業を進める。社会科学の実証分析手法は多様である。これらを適切に使いこなせるように、授業では典型的な実証研究論文を取り上げる予定である。
備考	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る
授業形態	講義
学習目標	受講生が、自身の研究課題、問題意識、保有データに対して、社会科学の立場から適切な実証研究計画を立てられるようになる。
授業計画	第 1 回 経験的・実証的研究の役割と体系 第 2 回 経験的・実証的研究とデータ分析 第 3 回 量的データの分析 第 4 回 質的データの分析 第 5 回 確認型のデータ分析 第 6 回 探索型のデータ分析 第 7 回 パネルデータの分析 第 8 回 実験データの分析 第 9 回 実証研究計画プレゼンテーション 第 10 回 複雑な因果メカニズムの分析にむけて
履修条件	統計学の入門書を理解していること
評価方法	出席 30%、プレゼンテーション 40%、レポート 30%
教科書	なし
参考書	授業中に適宜指定する
オフィスアワー	授業前後に行う
備考	

授業科目名	課題解決型データ分析論特講 2
科目番号	02JL002
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋 A 火 7,8
担当教員	岡田 幸彦
授業概要	世の中には、多様な社会データが存在している。これからの時代に利用可能な各種データに対する最先端の解析技術・方法論を事例紹介するとともに、それらのスポーツウエルネス領域への応用可能性を議論する。なお、授業では、筑波大学サービス工学ビッグデータ CoE の成果を取り上げることを中心に進める予定である。
備考	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る
授業形態	講義
学習目標	受講生が、最先端のデータ解析技術を把握し、スポーツウエルネス領域における課題解決のための応用可能性を議論するとともに、解決すべき新たな課題を創発できるようになる。
授業計画	第 1 回 ビッグデータ時代の到来と技術革新 第 2 回 ビッグデータ時代のデータサイエンス 第 3 回 伝統的な 2 次元データの解析 第 4 回 時系列データの解析 第 5 回 時空間データの解析 第 6 回 アクセスログデータの解析 第 7 回 テキストデータの解析 第 8 回 音声データの解析 第 9 回 生体データの解析 第 10 回 画像データの解析 *第 3 回以降の内容は、受講生の関心に合わせて変更する。
履修条件	課題解決型データ分析論特講 1 を受講していること
評価方法	出席 50%、レポート 50%
教科書	なし
参考書	授業中に適宜指定する
オフィスアワー	授業前後に行う
備考	

授業科目名	スポーツウエルネス研究演習 I
科目番号	02JL101
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	通年 随時
担当教員	菊 幸一, 尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 橋本 佐由理, 柴田 愛, 高橋 義雄, 山口 香
授業概要	スポーツウエルネス領域に関する研究及び課題解決型プロジェクトワークについて指導教員を中核としてメンタ教員を含めての指導のもとに研究計画を立案し、研究テーマの設定を行う。 中間報告会 I に終日参加すること、および、研究テーマおよび研究計画を発表する。
備考	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る
授業形態	演習
学習目標	博士論文の構成の輪郭を固めると同時に、課題解決型プロジェクトワークの具体化を進める。
授業計画	1 正及び副指導教員 3 名とのディスカッションを 3 か月に 1 回、年 4 回 (8 コマ分) 行う。 2 中間報告会への参加及び発表 (2 コマ分) ・ 研究計画を立案し、研究テーマの設定のための文献や資料の収集と検討 ・ 中間報告会 I への参加 ・ 中間報告会 I における発表 (研究テーマおよび研究計画) ・ 中間報告会における指摘事項への対応に関するレポート作成
履修条件	特になし
評価方法	授業、中間報告会への参加、発表内容、及びレポート内容の総合評価
教科書	各担当教員よりガイド
参考書	各担当教員よりガイド
オフィスアワー	各担当教員よりガイド
備考	

授業科目名	スポーツウエルネス研究演習 II
科目番号	02JL102
単位数	1.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	通年 随時
担当教員	菊 幸一, 尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 橋本 佐由理, 柴田 愛, 高橋 義雄, 山口 香
授業概要	スポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。中間報告会 II に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表する。国際学会で 1 回以上の発表を行う（海外での調査研究に代えることができる）。
備考	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る
授業形態	演習
学習目標	博士論文の中核となる研究を遂行し、その内容に関する考察力を高める。
授業計画	1 正及び副指導教員 3 名とのディスカッションを 3 か月に 1 回、年 4 回 (8 コマ分) 行う。 2 中間報告会への参加及び発表 (2 コマ分) ・研究の実施、資料データの解析、プレゼンテーション法 ・中間報告会 II に終日参加 ・中間報告会 II における発表 (研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況) 3 中間報告会及び国際学会における指摘事項への対応に関するレポートをそれぞれ作成
履修条件	スポーツウエルネス研究演習 I を履修済であること
評価方法	授業、中間報告会、国際学会への参加、発表内容、及びレポート内容等の総合評価
教科書	各担当教員よりガイド
参考書	各担当教員よりガイド
オフィスアワー	各担当教員よりガイド
備考	

授業科目名	スポーツウエルネス研究演習 III
科目番号	02JL103
単位数	1.0 単位
標準履修年次	3 年次
時間割	通年 随時
担当教員	水上 勝義, 尾縣 貢, 菊 幸一, 久野 譜也, 柴田 愛, 高橋 義雄, 橋本 佐由理, 山口 香
授業概要	スポーツウエルネス領域に関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究成果をまとめる。国際学会で口頭発表を 1 回以上行う。 (海外での調査研究に代えることができる)
備考	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る 2017 年度開講せず。
授業形態	演習
学習目標	博士論文合格できる取りまとめ力を身につける
授業計画	1 正及び副指導教員 3 名とのディスカッションを 3 か月に 1 回、年 4 回 (8 コマ分) 行う。 2 予備審査会で発表を行う。
履修条件	スポーツウエルネス研究演習 II を履修済であること
評価方法	授業への積極性、国際学会への参加、発表内容等の総合評価
教科書	各担当教員よりガイド
参考書	各担当教員よりガイド
オフィスアワー	各担当教員よりガイド
備考	

授業科目名	課題解決型プロジェクトワーク
科目番号	02JL104
単位数	3.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	通年 随時
担当教員	菊 幸一, 尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 橋本 佐由理, 柴田 愛, 高橋 義雄, 山口 香
授業概要	スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。この授業では、事前計画（実習テーマ設定、計画書の作成、発表）、フィールドワーク、事後報告（フィールドワーク報告書の作成、発表）の3段階で実施する。。
備考	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る 平成 28 年度入学者用
授業形態	講義、演習及び実習・実験・実技
学習目標	世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける
授業計画	1 事前計画期間（1 年次 4 月から 2 年次 9 月まで） ・テーマ設定 ・計画書作成 ・テーマ設定審査会にて計画発表 2 プロジェクト実施期間（1 年次 10 月から 3 年次 5 月） ・準備期間も含めて 3 か月以上のプロジェクト実施 3 事後報告会期間（1 年次 2 月から 3 年次 9 月） ・報告書作成 ・プロジェクト実施報告会にて発表
履修条件	特になし
評価方法	計画書および発表、実習（受入機関からの評価）、プロジェクト実施報告書および発表より総合評価
教科書	各担当教員よりガイド
参考書	各担当教員よりガイド
オフィスアワー	各担当教員よりガイド
備考	

授業科目名	課題解決型プロジェクトワークⅠ
科目番号	02JL105
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	通年 随時
担当教員	菊 幸一, 尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 橋本 佐由理, 柴田 愛, 高橋 義雄, 山口 香
授業概要	スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。この授業では、事前計画(実習テーマ設定、計画書の作成、発表)を行う。
備考	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る 平成 29 年度以降入学者用
授業形態	講義、演習及び実習・実験・実技
学習目標	世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける。
授業計画	事前計画(1 年次 4 月~2 年次 9 月まで) ・テーマ設定 ・計画書作成 ・テーマ設定審査会にて計画発表
履修条件	特になし
評価方法	計画書および発表より総合評価
教科書	各教員よりガイド
参考書	同上
オフィスアワー	同上
備考	

授業科目名	課題解決型プロジェクトワーク II
科目番号	02JL106
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2・3 年次
時間割	通年 随時
担当教員	菊 幸一, 尾縣 貢, 久野 譜也, 水上 勝義, 橋本 佐由理, 柴田 愛, 高橋 義雄, 山口 香
授業概要	スポーツウエルネス領域で学んだ知識や能力を実務に生かすための経験やトレーニングを行う。具体的には、スポーツウエルネス領域に関わる官庁、地方自治体、NPO、民間等の機関などの実際の受け入れ現場において、課題設定を行い、その解決のためのプロジェクトを実施する。この授業では、フィールドワーク、事後報告（フィールドワーク報告書の作成、発表）を行う。事後報告では、フィールドワーク実施内容、実施中に生じた問題点などに対する解決策を提示、新たな問題提起、大学院で学習した理論・議論の再構築等に関する考察及び発表を行う。
備考	受講はスポーツウエルネス学位プログラムの学生に限る 平成 29 年度以降入学者用
授業形態	講義、演習及び実習・実験・実技
学習目標	世界や日本におけるスポーツウエルネス領域リーダーとして、社会的問題や課題を解決できる論理的・実践的能力を身に付ける
授業計画	1 プロジェクト実施期間 (1 年次 10 月~3 年次 5 月) ・準備期間も含めて 3 か月以上のプロジェクト実施 2 事後報告会期間 (1 年次 2 月~3 年次 9 月) ・報告書作成 ・プロジェクト実施報告会にて発表
履修条件	課題解決型プロジェクトワーク I を履修済又は履修中であること
評価方法	実習 (受入機関からの評価)、プロジェクト実施報告書および発表より総合評価
教科書	各担当教員よりガイド
参考書	同上
オフィスアワー	同上
備考	